

提言 1

自然なあいさつができる子どもに育てましょう。

・・・心のチャンネルは開いていますか？

〈調査からわかったこと〉

調査では、「家族に『おはよう』『おはようございます』などのあいさつをしますか。」と質問しました。回答のうち「いつもする」「することが多い」を合わせた割合は、どの学年も約6～7割でした。

あいさつをよくしている子は、どの学年でも家族と様々な話題で話をしたり、悩み事を相談したりするなど、家族とのコミュニケーションが良好であることがうかがわれ、家族からの注意をその通りだと思ふことが多い傾向があります。また、勉強や読書を大切と考え、実際に読書の量が多いなど、前向きな姿勢で生活している傾向が見られました。

《私たち大人ができること》

子どもが言葉を話すようになると、あいさつができただけで周囲は喜び雰囲気が和むものです。「しつけ」としてあいさつを習慣化させる過程では、「まずは言わせる」という方法もあるでしょう。しかし、いつの間にか形だけになっていたり、あいさつをしなくなっていたりしていませんか？

あいさつは相手の心と交信しようとしたときに発する合図であり、他人とのコミュニケーションの第一歩です。例えば、朝の「おはよう」のあいさつに、「今日も元気だね。」などの一言を添えることで会話のきっかけが生まれ、心を通わせることができます。このように、「あいさつ」はあたたかな感情を伴った行為として定着していくことが望まれます。あいさつをすることは、人と心を通わすチャンネルをつくることであり、そうしようとする心の状態が、健全で前向きな姿勢につながっていくものと考えられます。

また、「あいさつ」によって開いた心のチャンネルから、その子の心のようすをうかがうことができます。たとえば、「行ってきます」からは学校生活への期待や不安が、「ただいま」からは今日一日の学校生活の様子などがわかります。逆に、あいさつをしなくなることは心のチャンネルを閉ざそうとするときのサインの一つと捉えることもできるでしょう。

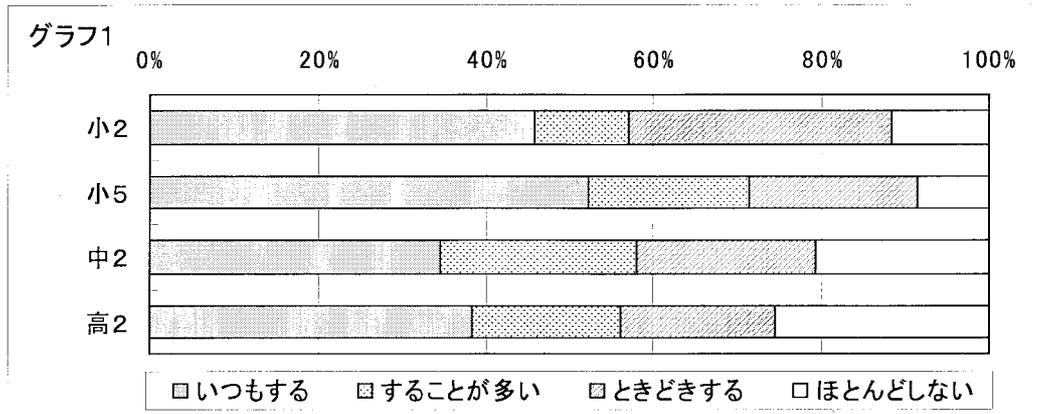
自然にあいさつができているか、心の通うあいさつが返ってくるかどうか、心のサインとしてあいさつを見直してみませんか。

心のチャンネルは開いていますか？

【データ】

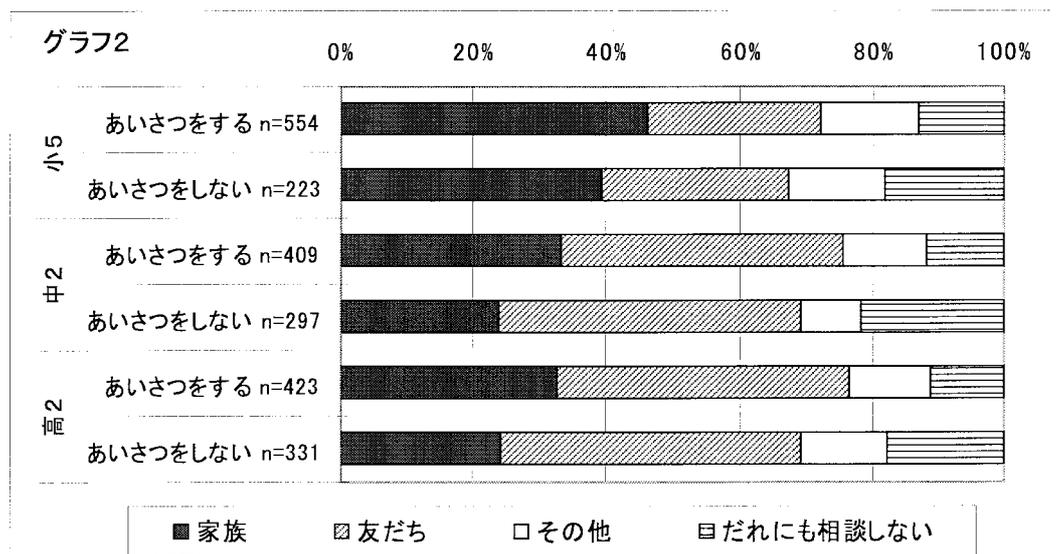
※ 家族へのあいさつへの回答は、「あいさつをする」群（いつもする+することが多い）と、「あいさつをしない」群（ときどきする+ほとんどしない）に類型化した。

- 1 家族に「おはよう」「おはようございます」などのあいさつをする子は、「いつもする」「することが多い」を合わせると、小2、中2、高2では約6割、小5では約7割でした（グラフ1）。



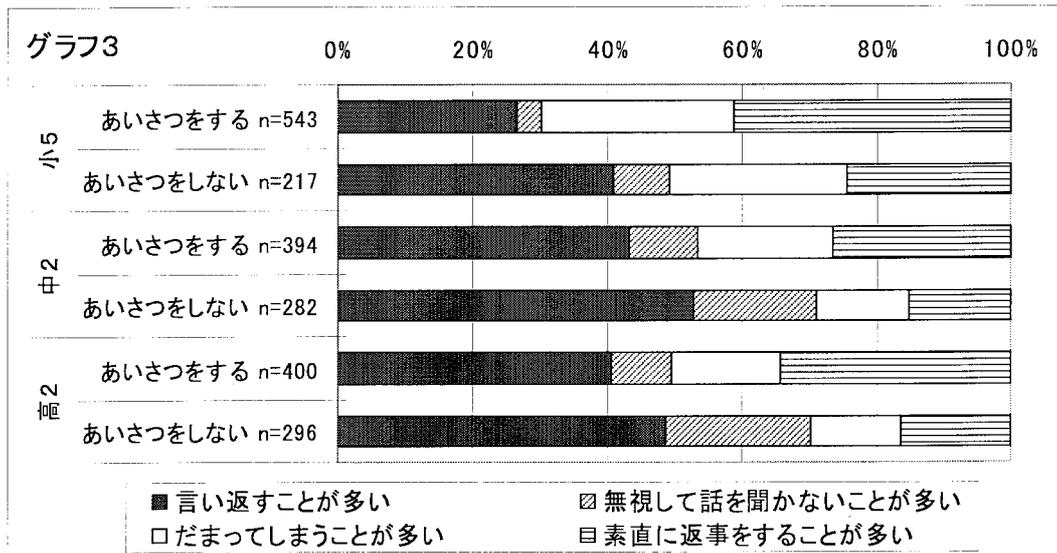
グラフ1：「家族に『おはよう』などのあいさつをするか」の単純集計結果

- 2 家族にあいさつをすることと家族とのコミュニケーションについて関連を見ると、あいさつをする子は、悩みを家族に相談している傾向があります。反対に、あいさつをしない子は、悩みを家族に相談しなかったり、誰にも相談しなかったりする傾向があります（グラフ2）。

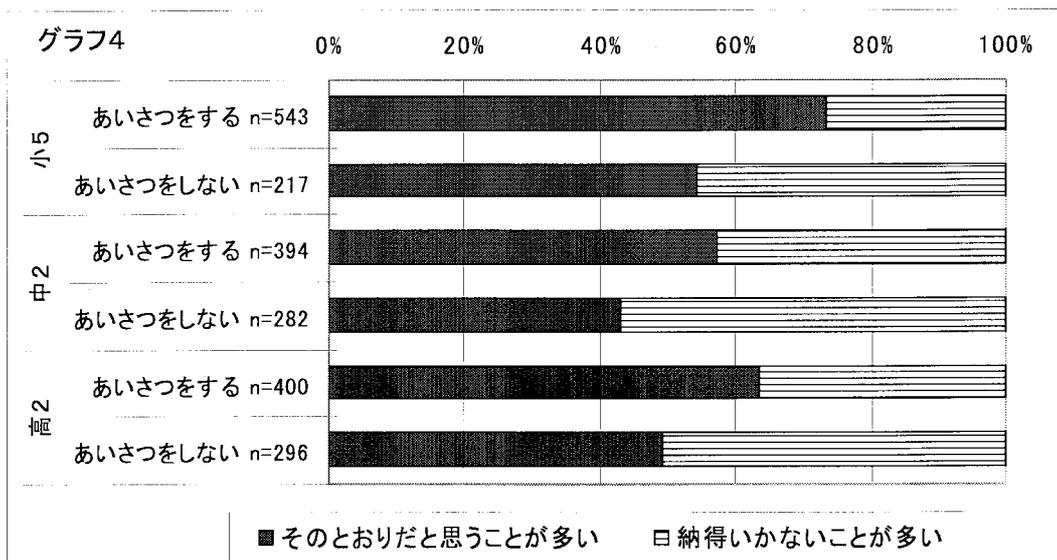


グラフ2：「おはようなどのあいさつをするか」と「困ったことや心配なことがあるときの相談相手」とのクロス集計結果

3 家族にあいさつをすることと家族からの注意に関することについて関連を見ると、家族にあいさつをする子は、家族からの注意に対して素直に返事をする傾向があり、あいさつをしない子は言い返したり無視したりする傾向があります(グラフ3)。また、家族にあいさつをする子は、家族からの注意に対してその通りだと思ふことが多い傾向があります(グラフ4)。

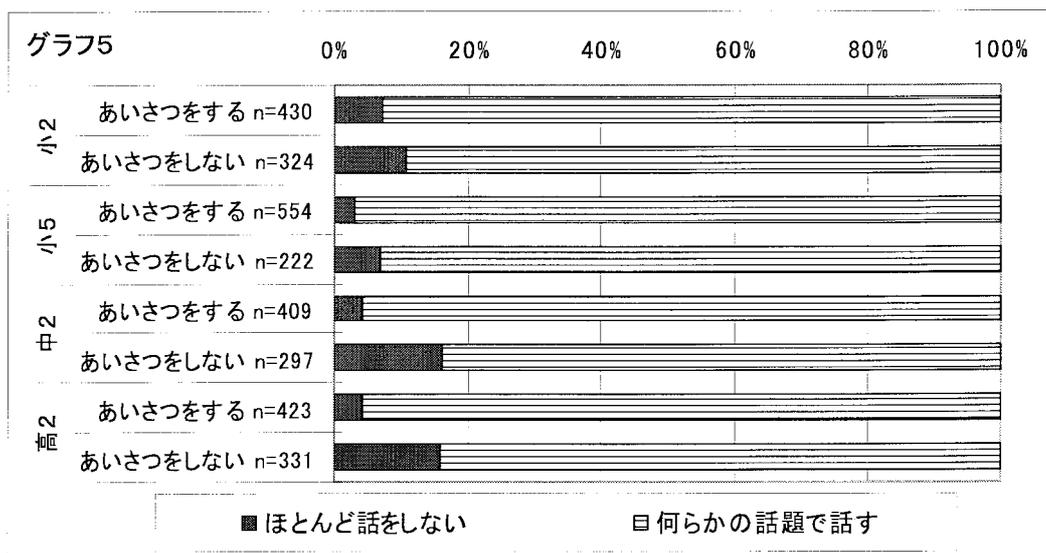


グラフ3：「おはようなどのあいさつをするか」と「家族から注意されたり意見をされたりしたときの態度」とのクロス集計結果



グラフ4：「おはようなどのあいさつをするか」と「家族から注意されたり意見をされたりしたときどう感じるか」とのクロス集計結果

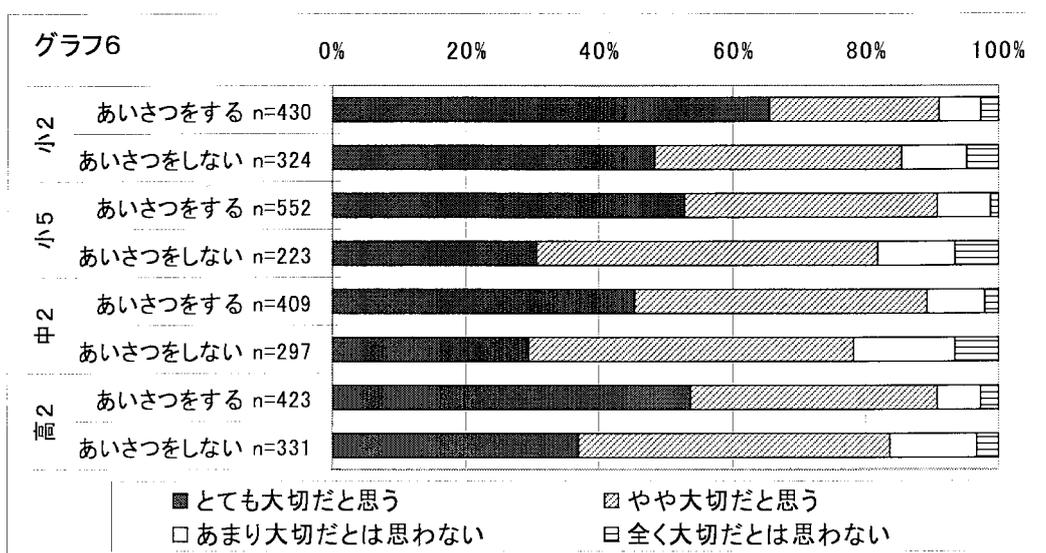
4 家族とどのような話題で話すかという質問では、ほとんどの子は「何らかの話題で話す」と回答していますが、「ほとんど話をしない」との回答が約1割でした。このことに着目して、あいさつをするかとのクロス集計をみると、「ほとんど話をしない」子は、家族にあいさつをしない傾向が見られます(グラフ5)。



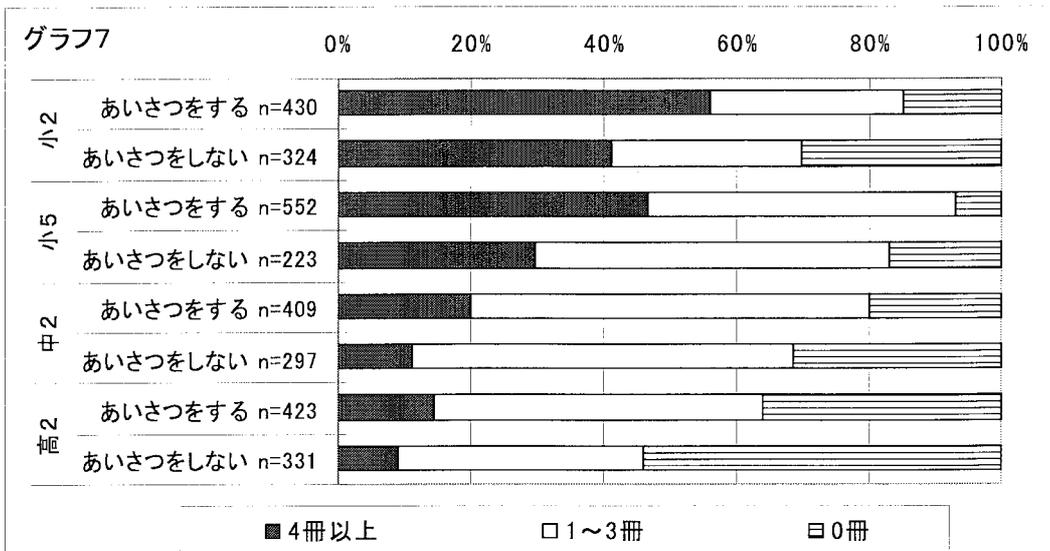
グラフ5：「おはようなどのあいさつをするか」と「家族と主にどんな話をするか」とのクロス集計結果

※「ほとんど話をしない」以外の項目を「何らかの話題で話す」群に類型化した。

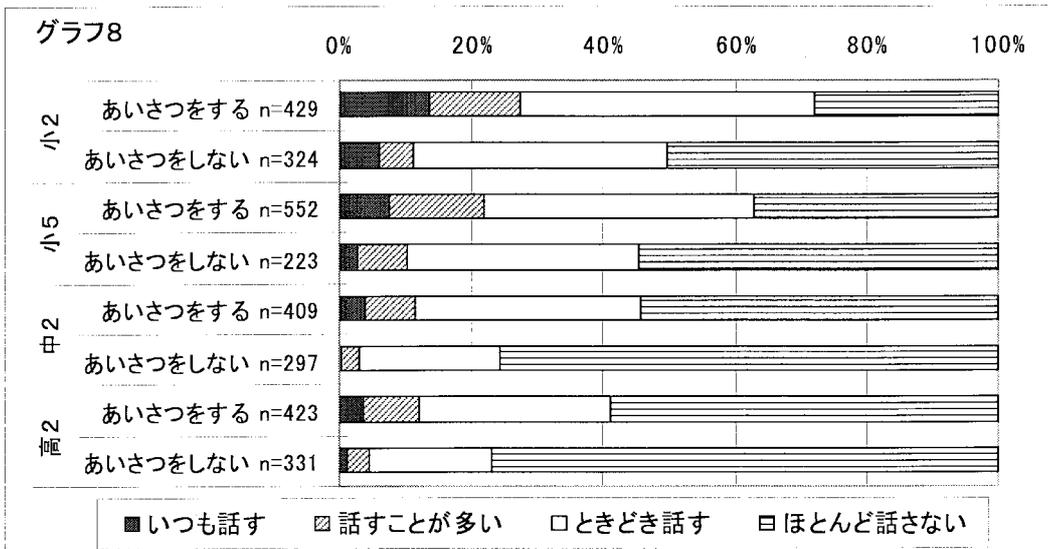
5 家族にあいさつをすることと読書に関することについて関連を見ると、あいさつをする子は、読書はとても大切と思う割合が高く(グラフ6)、読書量も多く(グラフ7)、読んだ本の内容について家族と話している傾向があります(グラフ8)。



グラフ6：「おはようなどのあいさつをするか」と「本を読むことは大切だと思うか」とのクロス集計結果

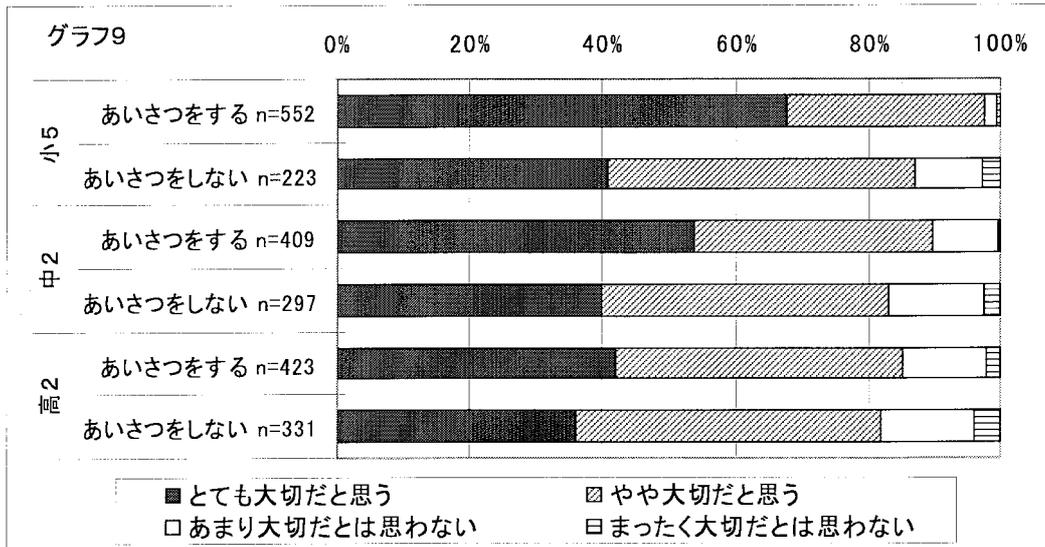


グラフ7：「おはようなどのあいさつをするか」と「1か月にどのくらい本を読むか」とのクロス集計結果

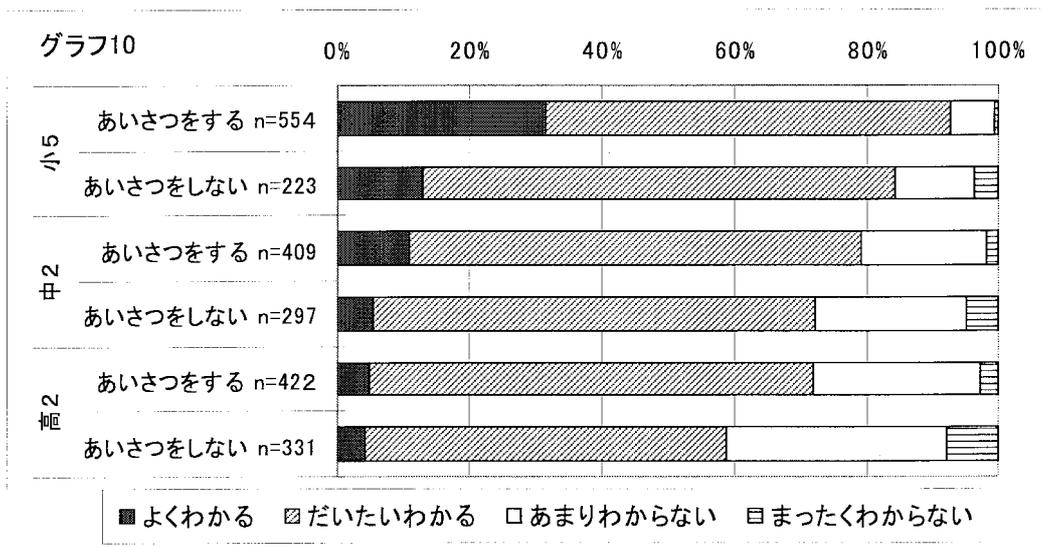


グラフ8：「おはようなどのあいさつをするか」と「読んだ本の内容について家族と話すか」とのクロス集計結果

6 家族にあいさつをすることと勉強に関することについて関連を見てみると、家族にあいさつをする子は、勉強することは大切だと思っている傾向があり(グラフ9)、授業を理解している傾向があります(グラフ 10)。この傾向は、特に小5で顕著です。



グラフ9: 「おはようなどのあいさつをするか」と「勉強することは、将来の生活のために大切だと思うか」のクロス集計結果



グラフ10: 「おはようなどのあいさつをするか」と「学校の授業がどのくらいわかるか」のクロス集計結果